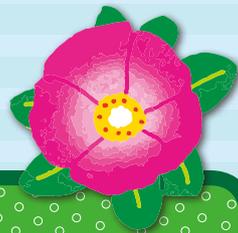


うみ あお やま みどり
海の青・山の緑



や ま だ
山田の自然



しきかいがん しらさき
けわしいリアス式海岸(白崎)



た くりのたき あらかわがわじょうりゅう
多久里滝(荒川川上流)

青い海、緑の山、山田には
うつく
美しい自然がたくさんだよ!



まつりちゃん

かい 海大くん





やま だ は っ け い 山田八景

山田八景は、1985(昭和60)年「町内の自然景観からすばらしいと思う景観を選ん
でください」という呼びかけで集まった29か所の景観から、わたしたちの故郷
を見直し、自然の大切さを確認するため、翌1986(昭和61)年に選ばれたものです。



おおかまざき 大釜崎

船越半島の東南に位置し、約150メートルの高さに切り立った崖と大きな岩にはさまれた水路があることから「海のクレバス」と呼ばれます。



わん 山田湾

ほぼ円形で周囲約30キロメートル、おだやかで丸い鏡を思わせる海面、そこに浮かぶオランダ島(大島)と小島は、町を象徴する景観の一つです。



しじゅうはっさか み かいがん 四十八坂とそこから見る海岸

町の最南部に位置する四十八坂は、昔、まがりくねった坂道が続き交通の難所だったことから名づけられました。ここからは、すばらしい水平線と日の出を見ることができます。



とよま ねがわげんりゅう 豊間根川源流

豊間根の日常橋から上流に約10キロメートルに豊間根川の源流があります。川は、オソノエラ沢などの清流を集め、脈々と流れ続け、田畑や海をうるおします。





どれだけ^み見たことがあるかな。

あかひらこんごう
赤平金剛

ふなこしはんとうとうぶ
船越半島東部にあ
る、高さ約350メートル
の大絶壁です。岩肌が
せきかつしよく
赤褐色であることから
この名前がつきました。



ゆわが
豊さん



みょうじんざきいつたい てん が もり おきまつしま
明神崎一帯の天ヶ森、沖松島

やまだわんこう いち あか とりい しろう どうだい た
明神崎は山田湾口に位置し、赤い鳥居と白い灯台が建て
られています。昔から沖へ出る船は安全や大漁を祈り、帰
てくる船は無事であったことに感謝をささげていました。

おおしま あらがみ
タブの大島をふくむ荒神

しゃしん かいすいよくしやう まなはま べんてんじま
写真は荒神海水浴場の砂浜と弁天島です。タブの大島
(4ページ)はこの岬のむこう側に位置します。荒神海水浴場
は水のきれいさでは国内有数の海水浴場となっています。



ふ どうそん ちゆうしん せきぐちがわけいりゅう
不動尊を中心とした関口川渓流

じんしゃ (関口不動尊) の奥宮から里宮まで続く
清流です。奥宮は、古くは山伏が修行する場所でした。

考えてみよう

じぶん ちよん だいひやう
自分にとっての町を代表する
ふうけい
風景はどこだろう。



山田の海・山・生き物



大沢の臥龍梅 (県指定天然記念物)



山田湾から見た冬の十二神山と日光山

豊間根川流域の地層 (ジオサイト)



ジオサイト
教室で2億
数千万年前
の地層を見る
豊間根中学校
の生徒たち

鯨山への遠足と途中から見たタブの大島



遠足で鯨山に登山した山田北小学校の子どもたち



★ 多久里滝
たぐりのたき (1ページ)

☆ 豊間根川源流
オソノエラ鍾乳洞



オソノエラ鍾乳洞

▼ 関口不動尊奥宮
☆ 関口川溪流
☆ 山田八景
★ 観光地、観光施設
▼ 寺社仏閣

山田湾の「けあらし (蒸気霧)」と夜明け



「けあらし」とは、冷えこみがきびしい冬の早朝、水面にたちのぼる霧が白く湯気のように見える現象のことです。



ハマナス (町の花)



スギ (町の木)



ウミネコ (町の鳥)

山田湾口の蟹気楼 (浮島現象)



船や岬が浮き上がって見えます。昔は「浜がまわる」と言っていました。

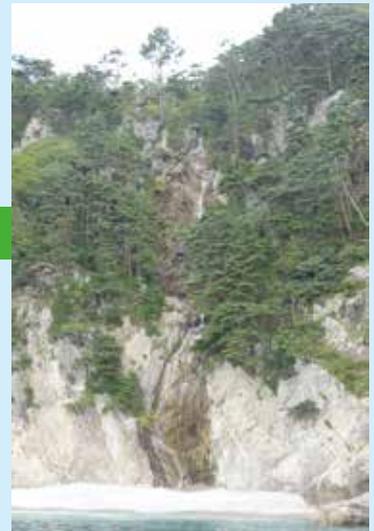
船越半島から見たけわしい海岸



すくい海岸

海に落ちる滝

船越半島の太平洋側には、海に直接落ちる滝がいくつもあり、船乗りにとって大事な水源になっていました。



田の浜のタブノキ自生地 (県指定天然記念物)



船越のタブの大島にも、タブノキの自生地が見られます。これらは、タブノキが育つ北限で、県指定の天然記念物になっています。

牛転峠付近から見た船越湾



自然を守る (陸中海岸自然遊歩道)



風倒木の処理。
チェーンソーを
かっいで山に入る
ことも。
自然遊歩道を行
く
武藤さん



ふなこしはんとう
船越半島の自然は、どうやって
守られているのだろう。



ラン



タブ

自然遊歩道を守る

三陸海岸一帯をしめる三陸復興国立公園には、「さんぽ道」と呼ばれる陸中海岸自然遊歩道が11か所設けられています。

山田町にはそのうちのひとつ「船越半島を訪ねるみち」、小根ヶ崎～霞露ヶ岳～漣磯海岸口～漣磯口～小谷鳥～船越園地駐車場(旧タブの木荘)の約21.4キロメートルがあります。

このうち小根ヶ崎～小谷鳥の自然遊歩道を管理している自然保護管理員が武藤さんです。

武藤さんは週に何回も自然遊歩道を歩きます。大変なのが風倒木(風によって倒れた木)の始末です。船越半島の山は全体的に土が薄く、地表のすぐ下に岩があるため木が深くまで根を張れず、強い風が吹いた後は木が倒れ、道をふさいでしまうことが多いのです。

武藤さんがもう一つ心配しているのが、山に入った人のごみと火の始末です。どちらも船越半島の自然に悪い影響をあたえかねません。

だけれど、いつまでも自然の美しさを楽しめるように、武藤さんは今日も山に入ります。



自然遊歩道では、さまざまな自然にふれあえるだけでなく、木々の谷間から海を見ることもできます。



自然保護管理員 武藤瑞雄さんの話

「船越半島を訪ねるみち」では、森や沢の流れ、さまざまな動植物、山とそこからながめる海とたくさんの自然とふれあうことができます。多くの人に知ってもらいたい山田町の財産なのですが、いま一つみんなに知られておらず、利用する人も少ないのが残念です。

ぜひみなさんにも歩いてもらいたいと思います。ただし、クマが出たり、道に迷ったり、山には山の危険があります。山に入るときは、安全のために山に詳しい人と一緒に入るようにしてください。

話し合ってみよう

自然を守るために、自分たちには何ができるだろう。